

令和2年度第1回向日市総合教育会議会議録

日 時：令和3年3月29日（月）

午後3時30分から午後4時30分まで

場 所：向日市役所 第10会議室

出席者：安田市長、永野教育長、白幡教育長職務代理者、松本教育委員、
流石教育委員、中野教育委員

事務局：清水教育部長、鈴木ふるさと創生推進部長、田邊教育部副部長兼学
校教育課担当課長、玉城教育部副部長兼文化資料館長、林ふるさと
創生推進副部長兼企画広報課長、長谷川主席課長兼教育総務課長、
松石主席課長兼学校教育課長兼学校給食センター所長、鹿島生涯学
習課長、永露教育総務課主任、

意見聴取者：中西第2向陽小学校長、鐘ヶ江第4向陽小学校長、廣川第6向陽
小学校長

傍聴者：なし

安田市長：

本日は、第1回総合教育会議を開催しましたところ、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

また、平素から市政全般、とりわけ教育行政につきまして格別のご協力をいただいておりますこと感謝いたしております。

昨年から新型コロナウイルス感染症が広がり、本市の教育現場においても、小中学校の一斉臨時休業など、今までに例のない対応をしてまいりました。学校再開後においては、感染予防の徹底など様々な感染対策を行い、その中で、修学旅行については、近隣でも実施しないところもありました。本当に随分悩みましたが、小学校6年生、中学校3年生の1年間はかけがえのない1年です。関係者各位の努力によって、修学旅行や林間学習を含めた課外学習が無事実施できたことは感謝に堪えません。

第4波が来ているといわれる中、これから我々がどのように子どもたちと関わり、どのように教育をしていくかが大きな課題であります。医学的証拠、科学的証拠を基に、子どもたちの勉強、運動、活動を遮ることなくやらせてあげたいと考えておりますので、先生方のご協力どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、以前から課題となっておりました、特定の地域で就学する子どもたちがすごく増えております。第4向陽小学校にはご存知のように、教室を作り、留守家庭児童会についても増築いたしましたが、もはや、増築等で対応できる限界がきていると思います。しかしながら、この状態が今後10年、20年と続くのかと言えば決してそうではありません。人口流入のピークや就学児童数のピークというのがあるので、多く見積もって10年間を乗り越えることが、我々にとって大変重要であると思っています。

また、小中学校個別計画の中で、令和6年度から校舎改築に取り組もうと考えております。現在、ご存知のように、第2向陽小学校で壁の一部が剥離・落下いたしました。今、建て替えるということは財力的に厳しい状況です。国の方で良い起債などがあればいいのですが、全くない中で市単独でお金を借りたとしても、学校を建て直すほどの余力がなく大変厳しい現状です。

そういった状況の中でも今一番できること、子どもたちに迷惑が掛からないようにするために、通学区域等に限定して、つまり通学区域の弾力化制度の実施について、これを今後どのように維持していくか、そして今後どのように学校教育を守っていくかということについて、ご議論いただきたいと思います。

どうかよろしくお願いいたします。

安田市長：

総合教育会議開会の前に、本日、傍聴を希望される方はおられますか。

永露主任：

おられません。

安田市長：

それでは、改めまして、ただいまから令和2年度第1回向日市教育総合会議を開催いたします。

それでは、議題に入らせていただきます。

議題1「就学児童数見込について」事務局から説明をお願いします。

松石主席課長：

それでは本日の議題でございます、今後の就学児童数見込みについて、ご説明させていただきます。

本市の第4向陽小学校周辺の北部地域一帯、中でも特に阪急洛西口駅東側につきましましては、桂川洛西口市街地に位置づけまして、大規模工場跡地や農地を活用したまちづくりが、土地区画整備事業によって行われたことで、大型の開発が始まり、イオンモール京都桂川をはじめとする商業施設や、宅地開発、大型分譲マンション等の建設により、かつてに比べ町は大きく様変わりをいたしました。建設されました分譲マンション等につきましましては、特に就学前児童がおられる若い世帯の入居者が多いことから、今後の小中学校の受け入れ数に影響を与えることが予想されるため、教育委員会におきまして、平成30年度から令和4年度までの5年間の第4向陽小学校及び寺戸中学校の児童生徒数見込みについて推計を行い、平成29年度第1回総合教育会議におきましてご協議をいただきました。

前回の推計時点では、阪急東向日駅前のイオン向日町店跡地の分譲マンションや、北部開発地域にはまだ未入居の物件がありましたので、見込み人数でお示ししておりましたが、転入者数も落ち着きましたことから、今年度におきまして、令和3年度から現時点で推計可能な令和8年度までの児童数につきましまして、新たに推計を行ったところでございます。

お手元資料の1枚目をご覧ください。これは、第4向陽小学校、及び弾力化制度を活用された際に、第4向陽小学校を選択されるご家庭が特に多い第2向陽小学校と第6向陽小学校の、弾力化制度を現状のまま維持した場合と、令和5年度就学から第4向陽小学校のみ弾力化を停止した場合の、それぞれにおける児童数と、必要となる学級数の推計をグラフでお示しさせていただいたものです。

資料2枚目をご覧ください。こちらは1枚目のグラフの基となります推計を学年別に表記したものです。

表の上段をご覧ください。これは弾力化制度を継続した場合における推計の詳細でございます。この推計によりますと、第4向陽小学校におきましては、来年度以降も児童数は増加を続け、令和6年度には現在の施設で受け入れ可能としております26学級を超え、861人、28学級まで増加する見

込みでございます。

一方で第6向陽小学校におきましては、緩やかに増減をしながら令和7年度には新入学児童が30人、1学級になる見込みでございます。

第2向陽小学校におきましては来年度以降、児童数は緩やかに減少してまいります。学級数につきましては令和7年度まで増減は見られませんでした。

次に表の下段をご覧ください。こちらは弾力化制度を令和4年度就学まで継続し、令和5年度就学から第4向陽小学校のみ弾力化を停止した場合の学年別の推計でございます。

この推計によりますと、令和5年度以降も第4向陽小学校の児童数は増加を続け、令和6年度には794人、26学級に達するものの、以降令和8年度までは26学級を超えることはないと思われまます。

一方で、第6向陽小学校の児童数も令和5年度以降増加を続け、令和8年度にはおよそ400人、15学級まで増加する見込みでございます。

第2向陽小学校におきましては、来年度以降、児童数は緩やかに増減してまいります。学級数につきましては弾力化制度を継続した場合と同様に、令和7年度まで増減は見られませんでした。

次に表の下段をご覧ください。こちらは弾力化制度を令和4年度就学まで継続し、令和5年度就学から第4向陽小学校のみ弾力化を停止した場合の学年別の推計でございます。

この推計によりますと、令和5年度以降も第4向陽小学校の児童数は増加を続け、令和6年度には794人、26学級に達するものの、以降令和8年度までは26学級を超えることはないと思われまます。

一方で、第6向陽小学校の児童数も令和5年度以降増加を続け、令和8年度にはおよそ400人、15学級まで増加する見込みでございます。第2向陽小学校におきましては、来年度以降、児童数は緩やかに増減してまいります。学級数につきましては弾力化制度を継続した場合と同様に、令和7年度まで増減は見られませんでした。

推計の項目についてでございますが、令和3年3月1日現在における0歳から6歳までの未就学児の住基人口に基づき、各年度新1年生の人数を算出し、2年生以降については原則そのままスライドをしております。各年度の新1年生の推計に当たりましては、弾力化制度による異動者数及び私立学校等への就学者数、そして特別支援学級への入級予定児童数につきましても、過去5年間の実績による平均値から積算し考慮しております。また、令和2

年度、3年度におきましては、3月31日時点で把握しております実数を記載しております。

ご参考までに申し上げますと、第4向陽小学校につきましては、最大数は昭和56年に児童数が1,224人で、学級数は31クラスであり、最小数は平成15年度の280人で、学級数は12クラスでございました。ただ、令和2年度の特別支援学級を除くクラス数は21であり、来年度は22クラスになる見込みでございます。

児童数及び学級数の過去のピーク時と現在とでは、校舎の使われ方も大きく変わってきております。コンピューター室や少人数教室の設置、また、小学校では京都式少人数によるクラス編成、食育のためのランチルームの設置などが新たに行われております。特に第4向陽小学校につきましては、新校舎を建設し、令和2年度から新たに4教室を増室しておりますので、単純にクラス数のみの増減だけで校舎の利用について比較することは難しくなっております。

推計結果は資料のとおりでございますが、第4向陽小学校につきましては、令和3年度以降も順次クラス数が増加するものと見込んでおります。第4向陽小学校の普通学級として使用可能な教室数は26でございますので、現状の弾力化制度を継続いたしますと、令和5年度までは現在の施設で受け入れが可能であると思われませんが、令和6年度以降につきましては、施設のキャパシティを超え、26教室では受け入れできない規模になる可能性が高いと思われれます。

また、令和5年度就学から第4向陽小学校の弾力化制度を停止いたしますと、特別支援学級の児童数や転出入者数など不確定要素を含んではおりますが、令和8年度までは現在の施設のありようで、ぎりぎり受け入れが可能であると考えられます。

今回は現時点で可能な令和8年度までの推計を行いましたが、令和9年度以降の変化についても注意深く見守る必要がありますことから、今後も定期的に児童生徒数の推計を行っていかねばならないと考えております。

なお、本日は参考資料といたしまして、3枚目に現在の小中学校の通学区の地図を添付しております。説明は以上でございます。

安田市長：

ただいま、事務局から「就学児童数見込について」説明がありましたが、ご質問やご意見等ございますでしょうか。

どうぞ、松本委員からお願いします。

松本委員：

この状況は以前から聞いてはいますが、特にキャパシティの問題ですが、この推移を見ると、令和8年度には第6向陽小学校と第4向陽小学校との児童数が3倍以上になっているということについて、同じ向日市の中でこれだけの差がある状況は避けたいという気持ちがあります。

保護者の中には、通学区域の弾力化制度を利用されている方も多いと思いますが、この状況を鑑みて保護者の理解と協力が必要だと思ひますし、そのような方向で進まざるを得ないと感じています。

安田市長：

白幡委員、いかがですか。

白幡委員：

私たちは通学区域の弾力化制度を停止すればどうなる、今の学校数でこうすればクリアできるという視点で考えていますが、子どもたちや保護者、PTAの意向はどうでしょうか。

例えば、友人関係が壊れた場合どうするのかということを含めて、子どもたちの意向というのもとても大事ですね。

併せて、PTAの中でもっと画期的なアイデアがあるのかということの意見を聴くことはできるのでしょうか。

行政の方針を通そうとすると、当然いろんな反発が出てくると思ひますが、それを抑え込むという形ではなく、できれば、PTAの方もこれしかないと思得できるように、また、具体的にPTAが今のこの状況をどのように見ているのか、アンケートとまでは言いませんが、何らかのデータがあれば良いと思ひますがいかがですか。

流石委員：

よろしいですか。

安田市長：

どうぞ。

流石委員：

一番顕著に表れているのは、クラス数の部分だと思います。第6向陽小学校では令和7年、8年度には1クラスになると出ています。

これをどう考えるかですが、子どもたちの視点で考えると、1クラスというのは人間関係がすごく狭くなると思います。これを考えると、下段の、一つの方法ではありますが、令和5年度から第4向陽小学校の弾力化制度を停止して、しばらく様子を見る。そうすると2クラスになり、第6向陽小学校のクラス環境も良くなってくのではないかということが、この表から読み取れるのではないかと思います。

それと通学距離の遠近については、体力面であれば、子どもたちは元気なので、大人ほど苦にならないと思います。第4向陽小学校が良い悪いではなく、第6向陽小学校の環境の良さというものも保護者の方に知っていただき、また、アピールができる一つではないかと思います。

どの小学校で学んでも、それぞれ学校の特徴がありますので、子どもたちが、この小学校に来て良かったというところを選べるのが一番良いのですが、このままの状況であれば、第4向陽小学校のクラス数が26クラスでも厳しくなってきました。こういう状況が続くのであれば、子どもたちの環境としてどうなのかということ省みることが必要だと思いました。

中野委員：

保護者の立場から考えると、安全性を考えるのは当然だと思いますが、第6向陽小学校だから安全ではないということはなく、どの小学校も安全な道だと思います。

また、保育所や幼稚園からの繋がりや友達ができると思いますが、今まで繋がりがなかった友達ができ幅が広がるよと言えれば良いと思います。学校を特定するのではなく、どこの小学校も良いところがあるというようにアピールできないかと思います。

安田市長：

私が小学生の頃は向陽小学校、第2向陽小学校の2校しかなかったのですが、3年生の時に第3向陽小学校ができ、4年生、5年生の時に第4向陽小学校ができました。

一例ですが、寺戸町新田という物集女街道挟んで東側の地区は、従来第2向陽小学校区でした。今は第6向陽小学校区になっています。物集女街道を渡っ

て山を越えて第6向陽小学校なので、とても違和感がありますね。そもそも論になりますが、第2、第4、第6向陽小学校は近過ぎますよね。今更言うことではないのですが、どう考えてもあの地域に3校並べること自体、無理があったのではないかと思います。

先ほど事務局から説明がなかったのですが、第4向陽小学校の敷地内に平成12年に老人福祉施設ができました。第4向陽小学校の教室数が少なくなったのは、それが一番の原因だと思いますが、今後どうすれば良いのかが必要ですね。

また、学校教育は、住んでいる場所や行く学校によって学校に差があってはいけない。どこに住んでいても同じ教育が受けられるべきだと思っていますので、特定の学校にだけ力をいれるようなことは、一番いけないことだと思っています。そのため、地域によって差をつけることはなく、どの小学校もどの中学校も同じ教育をしているつもりです。なぜ西ノ岡中学校に給食センターを置いたのかというと、大ききなどの物理的な条件であって、特定の地域だからこうしようということは全くありません。大ききなどでやむを得ないことはありますが、地域によって区別するというはしていません。これらのことで、PTAから何かご助言があるということはありますか。

松石主席課長：

弾力化制度を利用されている方のお声は入ってきていますが、PTAの方にご意見をいただけるよう投げかけたことはありません。

安田市長：

白幡委員が言われるように、PTAからの画期的なアイデアが出てきたら採用すれば良いのではないかと思います。

子どもたちの意向というより、幼稚園や保育所で同じだった関係を続けたいという保護者の意向が強いのでしょうか。

私自身の話をすれば、保育所から小学校へ入るときの友達は覚えていません。当時は子どもが多かったので、同じ保育所から入るということは少なかった。寂しい思いをしたことは一瞬ありましたが、3日もすれば忘れていたので、子どもは大丈夫だと私は思います。先ほどお話しにあったように子どもは子どもの社会をすぐに作るので、大丈夫だと思います。

第6向陽小学校は、確かに環境が良いです。通学の距離も問題ないと思っています。

第2向陽小学校では、物集女町坂本から通学している児童もいます。距離で言えばすごく遠いですね。中西校長、子どもの通学に片道1時間ぐらいかかることもありますか。

中西第2向陽小学校校長：

1時間はかかりませんが、かなり時間はかかります。

安田市長：

一概に距離だけで言うなら、物集女町坂本から第2向陽小学校に通学している子どもはどうするのかという話になります。あそこは向日市で一番遠いでしょう。

安田市長：

ここで校長先生のご意見を伺いたいと思います。廣川校長どうですか。

廣川第6向陽小学校長：

第6向陽小学校ですが、今、委員からも言っていたように、本当に環境に恵まれており、良い学校と私も思っておりますが、良い環境と思って来てくださる保護者と、その一方で距離というより、急こう配を上らなければならないということを気にされている保護者もいます。

実際は、確かに1年生当初は皆息を切らしながら来るのですが、すぐに慣れていきますし、高学年になると足腰も丈夫になります。他校については分かりませんが、第6向陽小学校から卒業した子どもは、陸上競技で活躍している子どももたくさんおり、基礎体力もついているように思うので、ぜひ第6向陽小学校にたくさん来てもらえるような制度になっていくよう願っています。

安田市長：

鐘ヶ江校長どうですか。

鐘ヶ江第4向陽小学校長：

先ほど市長のお話しにもあったように、子どもは入学したらすぐに慣れて友達ができます。第2向陽小学校区の保護者については、お兄さんが弾力化で第4向陽小学校に通学している場合、保護者としては同じ学校に行く方が参観な

ども便利なので、弟さんも第2向陽小学校ではなく第4向陽小学校に行かせたい。しかし、弟さんは、ほとんどの友達が第2向陽小学校に行くので家で反旗を翻すことがあります。子どもはどこでもやっているといます。保護者の生活圏や仕事の通勤などの都合もあると思います。一時、転校生もすごく多かったです。私がこの学校に異動した年には20数人いましたが、子どもたちは皆すぐに慣れて、この学校で良かったと卒業していった子どももいたので、子どもたちは思っている以上に柔軟ですし、慣れると思います。

本校の場合、この案で800人台くらいまでであれば、コロナ禍もありますが、グラウンド、体育館、プールや、新しく建てていただいた児童会、新しい教室も4つできたので、弾力化制度を一時停止することで、受け入れが可能ではないかと思っています。以上でございます。

安田市長：

中西校長はどうですか。

中西第2向陽小学校長：

先ほど提示された資料に、第2向陽小学校については弾力化制度の継続、あるいは第4向陽小学校のみの弾力化制度の停止、どちらであっても大きな影響は受けないと思います。現在でも第4向陽小学校に一番近いエリアのマンションを中心に、一桁程度の子どもが第4向陽小学校を選択している例はありますが、第2向陽小学校としては、第2向陽小学校校区内で第4向陽小学校へ行く子ども、第2向陽小学校へ行く子どもが混在するよりは、指導上、むしろメリットが出てくるのではないかと思います。また、人数、学級編制の学級数については、大きな影響はないと考えられます。先ほど、学校の魅力の話がありましたが、第2向陽小学校の独自性というか教育課程や立地を含め、良さを生かして地域の方とともに魅力ある学校づくりを引き続きしていきたいと思っています。以上です。

安田市長：

物集女街道から東側、寺戸町新田あたりの子どもは、気持ち的に第4向陽小学校、第2向陽小学校の2校を横に見ながら第6向陽小学校に行かなければならないのは、確かに少し気が重いでしょう。

ただ、小中学校個別計画では令和6年度から、まず第2向陽小学校と勝山中学校から改築を実施する計画でしたね。そうであれば、第2向陽小学校が

建て替わると子どもたちの意向も変わるかもしれません。

永野教育長：

現在、弾力化制度は新1年生入学予定数1割程度ということで行っていますので、今のところ小学校に関して抽選するケースは出ていません。しかし、この上の表の推計のとおりが増えていくと、いずれ抽選という形になっていきそうで、それも気がかりです。

安田市長：

抽選では余計に不公平感がでます。

中野委員：

保護者の視点だと、体力がついて良いというように思えず、坂がきつく可哀そうだと感じてしまいます。先ほど、第6向陽小学校長が、坂は慣れると言われましたが、1年生の間はしんどく感じることもあるが、2年生くらいになると慣れてくるということ、子どもたちから子どもたちに伝えることが一番効果のあると思います。「意外と坂って楽しいよね」というようなことを、子どもたちが幼稚園や保育所の子どもたちに伝える方法や子どもたち同士の交流の場などがあればいいですね。

廣川第6向陽小学校長：

今はコロナ禍で直接交流することは難しく、間接的になるかもしれませんが、直接交流できるような状況になれば、一緒に遊ぶだけでなく、そういった話ができれば良いと思います。

安田市長：

保護者は心配すると思いますが、私が子どもの頃は、坂の上り下りをしんどいということは聞いたことはないです。子どもたちは、大丈夫なはずです。私は、坂のことより、車が昔より多くなっていることが心配です。

白幡委員：

時間的にひっ迫しているということを含めて、現状が一番うまく利用していくことを考えると、弾力化制度を第4向陽小学校に関しては、停止するということが妥当な策であろうと思います。私の中では、希望として、PTA等から

画期的なアイデアが出るのではないかという思いがありますが、現状の教育の在り方などを考えなければならない我々の組織としては、弾力化制度の一部停止等が最も良いと思います。ただ、これで決定した場合、保護者や関係者から坂道が嫌という声が出ないように情報を伝えるなど、積極的に、早急に行うことが必要だと思えます。

様々な意見がある保護者に対し説得に努める必要があると思えます。繰り返しになりますが、情報を正確に迅速に、繰り返し伝える必要があります。なぜこうするのかということをして100%とはいかなくても、保護者の立場からも、やむを得ない、これで乗り越えていけると思えるような働きかけは、こちらからしていかなければならないと思えます。

安田市長：

重要なことですが、一度始めたことを停止するという事は非常に力が入ることです。弾力化制度を開始することは容易なことですが、弾力化制度を停止することは大変なことなので、説明は十分にしなければなりません。我々の考え方があり、これがベストと思ひ提案していますが、先ほど白幡委員が言われたように、何か別の意見があるのであれば聞いてみるべきだと思えます。

我々から見ると別の意見は無理と思いがちですが、しっかりと話をしなければなりません。PTAの方も全員に聞くのではなく、この機会に理事の方にどのような反応があるか聞いてみるなどすることが良いと思えます。

私は、弾力化制度の停止について2、3年前から危惧していました。弾力化制度の停止を早めてはと伝えていましたが、なかなか難しいことです。

寺戸町新田や垣内の辺りの第6向陽小学校区から、第4向陽小学校に行きたかったけど、弾力化の停止で、第2向陽小学校へ行こうと思う可能性はあると思うのですが、第2向陽小学校のキャパシティはどうでしょう。

中西第2向陽小学校長：

今は教室数としては一定数あります。大きく急増すると、苦しいことが起こるかもしれませんが、現在のところ、少人数授業で使っている教室などがいくつかありますので、即定員いっぱいになるというわけではありません。

安田市長：

第4向陽小学校に行けないのであれば、第2向陽小学校へ行こうとなるように思えます。坂を上って通学する人が皆、第2向陽小学校に行く可能性などあ

るのではないですか。

第6向陽小学校区は、物集女街道から東側、阪急まででしょう。こちらが全員第2向陽小学校に来てしまうことになったら大変なことになるという一抹の不安があります。

流石委員：

ある小学校へ通学していると、他校の情報はわかりません。きょうだいがいるとわかると思いますが。市長が言われたように、学校が近在している地域や距離が離れている地域もあると思いますが、学校の良さをどうすれば知れるのでしょうか。学校の魅力を発信するという事は、ホームページやお便りでしょうか。

安田市長：

学校によって特色を出すと言われますが、学校によって良い教育をしているなど、そういった差はないと思います。ただ、地域学習ですと、その学校がある地域の成り立ちや地域の特色、農業や栽培などの体験活動などで変わると思っています。6小学校全て、こうなんですという説明はしていませんね。

永野教育長：

各学校の取組みについては、弾力化制度の案内でも各学校の状況とホームページのURLを載せていますので、それをご覧いただくようにしています。

流石委員：

ホームページはあるのですね。

安田市長：

鐘ヶ江校長、あのホームページを見て、第4向陽小学校へ行かせますとなるのは、実際にはあまりないのではないですか。

鐘ヶ江第4向陽小学校長：

学校の取組みなどホームページを見ていただいている方もいると思いますが、ホームページのテクニックなどもありますので、どこまで見ていただいているか。転校生の場合では、保護者が来られたときに、きょうだい学級のこ

ともあり1年生と6年生、5年生と3年生、2年生と4年生の教室を同じフロアにしていることなどを説明したところ、6年生が1年生に漢字を教える素晴らしい学校だという声が入ってきました。サポートをしているだけなんです。

安田市長：

結局は地域ですね。それと、よく聞くのは、幼稚園の友達や保育所の友達がということで、おそらく保護者の友達だと思います。それが多いのではないのでしょうか。

中野委員：

年度末あたりにPTAの活動内容が配られました。PTAの活動ですが、このような学校の特色のようなものを書いたチラシのようなものを幼稚園、保育所に配れたら、わかりやすいかもしれません。

流石委員：

この弾力化制度とは関係なく、地域にどのような学校があり、どのような特色があるかということ、保護者が子どもを育てる環境として、知るといふのは大切だとすごく思います。

安田市長：

本当に、ふるさと学習も大変良いことだと思いますので、多く方に知ってもらいたいです。

松本委員：

先ほどから言われているように、当然、保護者の理解というのは必要です。私の子どもも児童会へ行っていました。保育所から児童会、特に第5保育所から児童会へ行く子どもが多いのですが、3月31日まで保育所、4月1日から学校が始まるまで児童会へ行くのですが、その間は知っている子どもがいないこととなります。第5保育所へ行っていて第6向陽小学校へ行く子どもは、そういう不安がかなり大きいです。

子どもにとっても保護者にとっても不安があると思いますので、その辺りを理解してもらいたいです。先ほど白幡先生が言われたように、様々な意見も受け止めて、その上でせざるを得ないという理解をしていただかないといけないと思います。だから、早く周知していただき、今から入ってくる子どもが対象

であるので、入学前の保護者を含めた保護者に対しての働きかけや保護者会等に対して、十分な説明が必要だと思います。

やはり、学校、PTAだけではなく、さらに下の年代に対する働きかけを十分にさせていただきたいと思います。

安田市長：

そうですね。もちろん、そうしなければなりません、保育所は不思議なことに、希望されるのが地域ではないのですね。

松本委員：

ですから余計に、第5保育所へ行っていたから第4向陽小学校という選択肢が固定されがちになります。

安田市長：

いずれにしろ、保護者の方に納得していただかないといけないと思います。これは令和5年度ですね。遠い将来の話ではないですね。

実際に弾力化制度を実施しているところはどのくらいあるのでしょうか。

永野教育長：

私が知る限りでは、弾力化制度を実施しているところは非常に少ないです。これほど枠を設けて、理由を問わず自由に選択できる小学校の制度を実施しているところはまずないと思います。京都府内では聞いたことがなく、むしろ、私どもにどう運用しているか参考にさせてほしいという問い合わせが南部の市からあったくらいです。

先ほど、冒頭説明にありましたように、第4向陽小学校の児童数が一番少なかったのが平成15年です。この弾力化制度が始まったのが平成16年度新入学生なので、児童数が非常に減り、保護者サイドから選ばせてほしいという声もあり、施設の的にも十分に余裕がある中で、弾力化制度が実施できたということです。運営している立場からは、できるだけ制度を維持して保護者の希望をかなえたいと考えています。ただ、施設のキャパシティについて、努力したがこれ以上は無理になるぎりぎりのところを推計でお示ししたということになります。

また、今後就学される予定の保護者の皆さんに説明が必要だと思います。

安田市長：

平成15年の時、第4向陽小学校は心配になるほど児童数が少なかったですね。私が議員になった年だったので、見に行きましたが、第6向陽小学校も少なかったのですが、第4向陽小学校は極めて少なかったですね。私は1,200人くらいの児童数の時の第4向陽小学校を知っているので、まだまだと思っている間に急に増えてきました。

安田市長：

きょうだいで上の子どもが弾力化制度を使って学区外の学校へ行った人への配慮はあるのですか。

永野教育長：

現在でも行っていますが、教育的配慮として、お兄さん、お姉さんが学区外の学校へ行っている弟さん、妹さんについては、特例を続けていく必要があります。

安田市長：

加えて、特別な教育的配慮が必要な子どももいますので、弾力化制度とは関係なく、配慮が必要です。そういう配慮は別として、人数的なキャパシティの不足で仕方がないという話です。今お話しがありましたように、説明を十分に尽くすことと、他にも別の考え方があるのではないかとお尋ねして、時間をかけてご理解を得るということが必要です。

ほかにご意見はありませんか。

よろしいですか。

今申し上げましたとおり、令和5年度就学児以降、当分の間、第4向陽小学校の弾力化制度については、停止するというのを基本的な考え方としつつ、繰り返しご意見があったように、十分な説明と配慮が必要なことについては引き続き行うということでよろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただきたいと思います。

次に議題2「その他」についてご意見ございますか。

安田市長：

議題2の「その他」について、ご意見がないようなので、本日の総合教育会議はこれで終わりにさせていただきたいと思います。

様々な立場からいろいろなご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日はありがとうございました。

これで、令和2年度第1回総合教育会議を終了いたします。